

猫における有害異形吸虫の治療と釣り針の摘出例

森 重 和 久¹⁾・斎 藤 哲 郎²⁾・頓 宮 廉 正³⁾

The extraction of a fishhook and the treatment of heterophyiasis in a cat

Kazuhisa MORISHIGE¹⁾, Tetsuro SAITO²⁾, and Yasumasa TONGU³⁾

A domestic cat took a fish with a fishhook. She was infected with *Heterophyes heterophyes nocens* and had loose bowels. The fishhook was extracted from feline stomach using a flexible-alligator extractor. The hypodermic injection of praziquantel (30mg/kg) was successful for the treatment of this parasite.

Key Words : heterophyiasis, praziquantel, cat

釣り人の捨てた魚を食し、ついていた釣り針と一緒に飲み込んだ飼い猫から鉗子を用いて針を摘出した。同時に検便の結果有害異形吸虫の感染を認めたのでプラジカンテルで駆虫し好結果を得た。

症 例

症例は雑種猫，雌，1歳，体重2.2kg。釣り針を飲み込んだ疑いで来院し，食欲は旺盛であったが下痢便が続き時々嘔吐を認めた。X線テレビ所見により胃内に1本の釣り針を認めた。厚層塗抹法により糞便検査を実施したところ多数の異形吸虫卵らしきものを認めた。虫卵の計測値は26.6~30.0 μ m (平均27.5) \times 13.3~18.4 μ m (平均16.1)であった。

治療および経過

患猫はまず塩酸ケタミン（ケタラール50，三共株式会社）の30mg/kg筋注で麻酔した後，フレキシブル・アリゲータ鉗子（Type L（FK-480L），富士写真光機株式会社）を用いて透視下で経口的に釣り針を摘出した。釣り針には11.4cmのテグス

糸がついていた。その後，全身状態が好転せずいったん帰宅させ様子をみた。当日，嘔吐があり胃液とともに体長3.1cmのチチブを吐出したが，これには釣り針はついていなかった。術後2日を経過し，便も正常に近くなったため駆虫を開始した。駆虫にはプラジカンテル praziquantel（ドロンシット，バイエルジャパン株式会社）を30mg/kg皮下注射した。駆虫後の便より成虫を得て有害異形吸虫 *Heterophyes heterophyes nocens* と鑑定した。治療効果判定のためEggs Per Gram（EPG）を算定したところ，投薬日には750EPGであったものが3日後には0 EPGになり，その後10日目，16日目，30日目も0 EPGであったので陰転したものと判定した。

考 察

患猫は広島県と岡山県の県境付近で飼育されており，かなり広範囲に行動して釣り人の捨てたハゼ，チチブ，イワシ，ママカリ，イナなどの魚をしばしばくわえて帰っていた。これら瀬戸内海沿岸の特にハゼやイナには有害異形吸虫のメタセル

1) 岡山大学医学部寄生虫学教室
2) 斎藤獣医科病院
3) 岡山大学医療技術短期大学部一般教育

カリアが寄生している^{1,2)}。駆虫薬のプラジカンテルは多くの犬、猫の吸虫症において駆虫効果が認められている³⁾が EPG から推察して猫の有害異形吸虫症にも効果的であった。投薬により虫卵が変形するといわれているが、今回の測定では左右対称で変形卵はほとんどみられなかった。また釣り針の摘出には外科的な手術が必要かと思われたが、幸い針は胃壁にはささっておらず鉗子を用いることによって経口的に取り出すことに成功した。

文 献

- 1) 浅田順一, 岡橋清, 草浦勉, 山中浪速, 草浦清子, 小西時子, 千住清一, 河野清: 香川県下において広く人体に蔓延せる異形吸虫類に関する研究, 日本医事新報, 2108: 33-48, 1964
- 2) 小宮義孝: 日本における寄生虫学の研究 5, 目黒寄生虫館, 東京, 170, 1965
- 3) 深瀬徹: 犬猫に寄生する吸虫・条虫の駆虫薬プラジクアンテル, 小動物臨床, 10: 85-89, 1991

(1992年10月16日受理)